

氏名	濱田利久
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4425 号
学位授与の日付	平成26年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Cutaneous lymphoma in Japan: A nationwide study of 1733 patients (本邦における皮膚リンパ腫について: 全国調査1,733症例)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 松川 昭博 教授 木浦 勝行

学位論文内容の要旨

世界の地域間や人種・民族間で皮膚リンパ腫の疾患構成や個々の発症頻度は異なっている可能性がある。本研究は本邦における皮膚リンパ腫の疾患構成を明らかにするために、皮膚リンパ腫全国調査から疫学的なデータを使用して実施した。2007年から2011年までの5年間で本邦の600以上の施設から1,733症例が登録された。1,733症例の内訳は、T/NK細胞リンパ腫が1,485症例(85.7%)、B細胞リンパ腫が224症例(12.9%)、芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍が24症例(1.4%)であった。本研究では菌状息肉症の頻度がもっとも高く、750症例(43.3%)であった。菌状息肉症の病期別頻度では早期が73%をしめており、これは従来の海外からの報告に類似していた。成人T細胞白血病・リンパ腫および節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型はそれぞれ16.7%および2.0%であり、欧米に比べて本邦でT/NK細胞リンパ腫の頻度の高い要因と思われる。性別では、皮膚リンパ腫の大部分の疾患で男性に多かったが、皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫をはじめとするいくつかの疾患では女性優位であった。

論文審査結果の要旨

本研究は本邦における皮膚リンパ腫の疾患構成を調査集計したものである。2007年から2011年までの5年間で本邦の600以上の施設から1733症例が登録された。その内訳はT/NK細胞リンパ腫が1485例(85.7%)、B細胞リンパ腫が224例(12.9%)、芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍が24例(1.4%)であった。菌状息肉症が最も多く、750例(43.3%)であった。その病期別頻度では早期が73%を占めており、これは海外の既報と類似していた。成人T細胞白血病・リンパ腫および節外性NK/T細胞リンパ腫鼻型はそれぞれ16.7%および2.0%であり、欧米に比べて本邦でT/NK細胞リンパ腫の頻度が高い要因と考えられた。皮膚リンパ腫の多くは男性優位であったが、皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫はじめいくつかの疾患は女性優位であった。実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、皮膚リンパ腫に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。